

木くぼり

樹木の不思議 40



No.
74

発行
' 09-2月

株式会社 ナガイ内

住まい教室 金谷教室

樹木は氷河時代をどう生き抜いたか？

本州中北部の日本海側の山地は、世界でも有数の多雪地域です。この山域の亜高山帯針葉樹林ではマツ科モミ属のオオシラビソ（アオモリトドマツ）が優勢です。たおやかな山並みを被うオオシラビソの純林、そして厳しい風雪のなかで造形されるオオシラビソの樹氷は日本の代表的な自然景観の一つです。しかし、太古からの原風景であると思われるこの森林が、じつは比較的最近成立したものであることがわかってきました。



オオシラビソ



第四紀と呼ばれる最近の 200 万年は、寒冷な氷期と温暖な間氷期とが交互に現れるという環境の変動が激しい時代でした。10 万年前頃から始まった最後の氷期は、2 万年前に最も寒い時期を迎えました。この時期には冬の寒さが厳しく雪の少ない大陸的気候が卓越しており山麓部を亜寒帯針葉樹林が被う景観が広がっていたようです。ところが、オオシラビソはこの時代の堆積物からはほとんど確認されておらず、限られた場所でのみ分布するごくまれな存在であったと考えざるをえません。

最終氷期は約 1 万年前に終了し、日本海に暖流が流れ込んだために多量の雪が降るようになり温暖・湿潤な海洋的気候への急激な環境変化のなかで、亜寒帯林では大陸的気候下で繁栄していた樹種が壊滅的に衰退していき、代わって海洋的気候を好むオオシラビソが勢力を伸ばす方向に向かったのです。

では、オオシラビソは氷期をどこでどうやって生き抜いたのでしょうか？ 確たる証拠は無く、想像の域を出ませんが、オオシラビソ林は、なだらかな高原状の火山でよく発達しており、発達していない山でもその分布域は湿原の周辺のような緩斜面に限られています。オオシラビソの拡大の核となった林は湿原の周辺のような場所にあった可能性が高いと思われます。本当にそのような場所に存在していたのか、なぜそこでのみ生存できたのか、については今後の課題です。

参考資料：森の木の 100 不思議・インターネット他

ホームー住まい教室に来てみませんか？

教室の時間は約 3 時間です。テキスト・ビデオを使って教室講師と楽しく勉強してまいります。一切の強制、強要はありません。

お気軽においでくださいませ。

要予約 (0547) 45-3501

ホームページ <http://www.e-house.co.jp/nagai/>

e-mail kk-nagai@po2.across.or.jp (メールでの予約もOK! です。)



昨年4月に完成したW邸 門・塀・庭が完成しました。



塀は、お施主様がご自分で塗装されました。
建替え前の庭の石や、植木も新しい庭に移植され、生まれ変わりました。
居間から眺める庭が、また最高です。
お近くにお越しの際は、立ち止まって是非ご覧になって下さい。

(株)ナガイ 島田市牛尾510-2 TEL (0547) 45-3501